

団体名	特定非営利活動法人 日本レスキュー協会
活動テーマ	災害救助犬の育成事業



この助成金により多くの自治体や災害救助犬団体との訓練に参加することで、災害救助犬の認知が徐々に拡大してきたと共に、訓練練度の向上にも繋がりました。2016年4月14日に発災した熊本地震では、当協会から4頭（「ホープ」「J」、「エイト」「Q」）の災害救助犬を派遣し、そのうちの2頭である「ホープ」「J」は、平成23年度 JR 西日本あんしん社会財団より助成いただいて購入し、その後の訓練においても継続的に助成して頂いたことによって成長を遂げた犬達です。熊本地震では、発生後すぐ準備を整え、約3時間後には被災地に向け出動しました。被害が大きかった益城町を拠点とし、情報収集を行いながら行方不明者の安否確認を行い、その後土砂被害が大きかった南阿蘇村へと移動しました。ここでは、複数の方の行方不明者情報があり、私達も災害救助犬を用いて捜索活動にあたりましたが、土砂の堆積が大変深く捜索は難航し、発見には至りませんでした。

公的機関との連携の強化を図る為、私たちは「顔の知れた関係づくり」に努めました。様々な地域での防災訓練をはじめ、より密な関係を培う為、実践的かつ意見交換の場を多く設けた訓練を取り入れました。このような訓練の中で、2016年11月に神戸市消防局、12月には兵庫県救助部会との連携訓練が実現しました。私たちは、災害救助犬先進国のように救助部隊の一組織として日本でも災害救助犬が有効的に運用されることを大きな目標として掲げています。この訓練で得た経験や実績は、その目標に向けて確実に近づくことが出来ました。更には、大阪府河内長野市、和歌山県橋本市において、新たな協定が生まれ少しずつではありますが、救助犬の活動の場の拡大に繋がっています。